

2023年度 光塩女子学院 2月1日	総合	受験番号	氏名	得点
--------------------------	----	------	----	----

問1	(1) (ア・イ)(ウ・エ)	
	(2) (ア・エ)(イ・ウ)	
	(3) ウ	(4) ウ
	(5) どの紙でも重ねるごとに光の明るさの増え方は小さくなり、最後には重ねた枚数が増えても光の明るさは変化しなくなっています。ティッシュペーパーとキッチンペーパーは8枚、習字の半紙とらくがき帳の紙は4枚で変化しなくなっています。これは(2)の「同じ厚さで比べた重さ」が同じになる組み合わせです。変化しなくなったときの光の明るさは紙ごとに異なっていて、[実験1]で調べた厚さで、厚いものほど光の明るさが大きくなっています。	
	(6) 重ねたときの白さの変化を調べたいとき、私ならば文字を書いた紙の上に白い紙を重ねていって、文字の見え方の変化を調べます。1枚重ねるごとに写真を撮って、それをパソコンで拡大して見てみます。また、何枚重ねたときに文字が見えなくなったかを調べて、グラフにしてみます。紙ごとにちがって見える白さを比べるために、それぞれの紙と同じ白さを絵の具を使って再現します。同じ白さかどうかは他の人にも見てもらって、同じ白さになったときに混ぜた絵の具の色と量を記録します。	
問2	ヨーロッパの庭園は人工的に作りこまれた規則的な美しさがありますが、日本の庭園では静かな空間が大切にされ、質素な雰囲気があります。植物が自然のなかにそのまま生えていそうな形で整備されており、それぞれの四季で印象が変化していくのが魅力です。	

問3	(1) 色 ウ 理由 危険度が上がると色が濃くなるから
	(2) 色で危険度を表現するようになったことで、すばやく危機意識を持つことができるようになり、災害に対して的確な判断ができるようになった。
問4	A ア B イ
問5	花のめしへやおしへがある部分を目立たせることで、昆虫に花粉や蜜のありかを示して花粉を運んでもらい、受粉を手助けしてもらうため。
	季節 例: 冬 色 赤 と 白
問6	理由 例: つばきが真っ赤な花をさせ、その上に真っ白な雪が積もっている冬の風景を想像したから。
問7	ア ⇒ イ ⇒ オ ⇒ エ ⇒ ウ
問8	私が変わってほしくないのは、手紙を書く風習です。昔は、おたがいの近況や気持ちを大切に手紙に込めて送っていました。手紙を書く時間、封筒に入れる時間、切手を貼る時間はかけがえのない大切な時間だと思います。返事を待つ時間にワクワクすることも、メールでは不可能な、手紙ならではの楽しみです。しかし、今はメールなどで1分にも満たない短時間で送れるようになっていて、今後もメールの手軽さはますます重視されるようになっていきそうです。「繊細な感受性」を作り育てるものとして、手紙を書く風習はなくなつてほしくないと思います。